すぎのこ つうしん

船橋市立金杉台小学校　学校だより　１１月号

校長　中野　誠
〒273-0852　船橋市金杉台２－１－７
電話０４７（４４８）３８７６
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0001/kanasugidai-e/index.html

金杉台小ブログ



修学旅行に行ってきました

校長　中野　誠

晩秋の候、保護者・地域の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、10 月 22・23 日の２日間、6 年生とともに栃木県日光市へ修学旅行に行ってまいりました。私はこれまで何度も日光への引率を経験しておりますが、山の変わりやすい天候下でまったく雨に降られなかったのは初めてでした。早朝は氷点下、日中も　10℃を下回る寒さでしたが、体調を崩す子もなく、全員が元気いっぱいに過ごしました。世界遺産「日光東照宮」での見学をはじめ、戦場ヶ原の散策、迫力ある湯滝や華厳の滝、そして日光江戸村での文化体験など、実に有意義で実感に満ちた学びを得ることができました。



日本に宿泊を伴う修学旅行が誕生して　140　年。私たち教員は、子どもたちが平素と異なる環境で見聞を広め、人間関係を深める重要な行事として大切にしてまいりました。しかし近年、世界の教育界では修学旅行の廃止が急速に進んでいます。要因は、事故発生時の引率教員への法的責任追及の増加や、夜間指導等の過酷な負担回避です。ある国では、徒歩移動中の事故で「先頭の教員が 20 メートルの移動間に一度しか振り向かなかった」として有罪判決を受けました。この判決以降、法的リスクへの不安から修学旅行実施率は　98%からわずか　5%へと激減したと報道されています。その国では、実踏やアレルギー確認、当日の警備や救急対応は専門要員へ委ねられ、教員の役割は「管理マニュアルの履行監督」へと変化しているそうです。

翻って本校の修学旅行に目を向けると、夏休み中の現地調査に始まり、動線や医療体制の確認、現地施設やガイドとの綿密な調整、児童一人一人の体調やアレルギーへの細やかな配慮など、事前準備から教員自身の手で積み重ねてまいりました。現地でも早朝の凍てつく空気から夜間の見回りまで、片刻も気を抜くことなく子どもたちに寄り添い、「安全に帰す」という責務を果たした上で、かけがえのない思い出と成長を届けようと、十分な睡眠もとらず奮闘しました。担任教師と養護教諭の溢れる使命感と情熱に、決して口には出しませんが、校長として深い敬意を覚え、誇りに思いました。

時代がどれほど変わろうとも、仲間と寝食を共にし、本物の歴史や大自然に触れて目を輝かせる体験には、教室の机上だけでは得られない、生きた学びが存在します。たくましく成長した　6　年生の姿が、その何よりの証です。保護者の皆様の温かいご理解とご協力に心より感謝申し上げます。今後とも教職員一丸となり、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

生活目標　**外で元気よく体を動かそう**

◆スクールカウンセラー来校日のお知らせ　ご相談がありましたら、担任または教頭までご連絡ください。

市 SC：　6 日、13 日、27 日　　県 SC：　5 日、19 日